

すいた環境サポーター養成講座 第3回目

日時：9/13(木)18:30~20:30

場所：千里市民センター8階 多目的ルーム (2)

◆ファシリテーション法

講師：特定非営利活動法人大阪府民循環型社会推進機構 事務局長 逸見 祐司

・あいこじゃんけん

初参加の受講者のためにアイスブレイキングゲームをしました。

同じ人とじゃんけんするのは1回だけ、多くの人々とアイサツしながらじゃんけんをして、3回あいこを作った人から先着順に輪になって座ります。このゲームで作られた輪を用いて、グループ分けに利用する方法も学びました。



最後まで、なかなか座れない（あいこ）にならない人がいましたが、「最も時間をかけて最も多くの人と知り合いになれた人ですね。一期一会は結果にとらわれずプロセスを大切に作る心から生まれます。本日はプロセスを重視する手法として、ファシリテーションについて学びます」との講師からのコメントと、本日のテーマについて語っていただきました。

・行動社会化経験プログラム

A.S.E（行動社会化経験）プログラムの実習を通じてグループファシリテーション法を学びました。

このプログラムは個人の社会性を育み社会環境の再組織化を目指したプログラムです。あらかじめ設定された課題に対して、グループがどのようにしてその課題を解決できるのか、そのためにグループの各メンバーの力を引き出すにはファシリテーションが有効な手法となります。体験学習サイクルの各プロセスを通じて、受講者はファシリテーターに不可欠な「共にあること」、「受容すること」、「共感と同感の違い」等について学びました。

本日はA.S.Eプログラムの一例として、以下の2つのアクティビティを体験していただきました。

・ヒューマンチェーン

10人各人の両手、全部で20本の手が複雑に絡み合う迷路のような状態から皆で知恵を出し合っ、ひとつ又は二つの人の輪（ヒューマンチェーン）を作ります。

この体験後、すぐに「なぜ成功しなかったのか」、「どうすれば成功するのか」を皆で考えます。成功するために「何が必要なのか」「だれがどんな役目をするのか」など、様々な意見が出ます。その後、もう一度、ヒューマンチェーン作りにトライします。このワークを通じて、「多様な人々が協働するには何が大切か」を話し合いながら、「コンセンサスの作り方」を学びます。



・魔法のじゅうたん

グループ全員の体重で「魔法のじゅうたん」は空へと飛び立ちます。小さなじゅうたんに全員が乗るのは大変ですが、このじゅうたんが無ければ、危険な場所から脱出できません。この状況設定の下、課題をどのように解決するのか、またそれぞれ違うみんなの考えを生かすには、どのようなファシリテーションであればよいのかを考えていきます。



プログラム後に「PM理論」といって、「目的遂行が一番大事という考え」、反対に「人間関係が一番大事という考え」との関係性から学んだことの生かし方及び、PDCAサイクルなどについて学びました。

◆ふりかえり

第3回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。